

(仮訳)

Key Issues:

- 13: 地域社会資本の整備
- 8: 少数グループ
- 14: 地域産業の振興

気候区分:

Cfb: 西岸海洋性気候

主題:

- ・ 水力発電プロジェクトが生み出す地域への便益



効果:

- ・ 海岸線から Saint-Marguerite 3 号発電所間を結ぶ 86 kmの道路新設による内陸へのアクセスの改善
- ・ 社会基盤の整備による地域社会の生活環境の向上
- ・ 持続可能なノウハウの地元企業への移転による地方経済発展への貢献

プロジェクト名: Saint-Marguerite 3 号発電所

国名: カナダ

実施機関 / 実施期間:

- ・ プロジェクト: Hydro-Quebec 社
1994 年 - 2002 年
- ・ Good Practice: Hydro-Quebec 社
建設期間中およびその後の数十年間

キーワード:

社会基盤施設の整備、地域開発、能力開発(キャパシティビルディング)、
地域社会への波及効果の最適化

要旨:

社会基盤の改善および地域産業の発展を支援助長するための諸施策が、Innu 先住民地域社会、地域・地方行政当局および狩猟・漁業協会の間で締結された3つの協定書の中で明示された。さらに、地域経済への波及効果を高めるための施策が、経済界を代表する地域関係者から構成される地域経済委員会の支援を受けて実施された。

1. プロジェクトの概要

St. Lawrence 湾の北海岸に位置する、Saint-Marguerite 3 号発電プロジェクトは、モントリオールの北東約 700 km の Saint-Marguerite 川で実施された。その河口近くには、既に 2 箇所の民営小水力発電所、Saint-Marguerite1 号および 2 号が建設されている。Saint-Marguerite 3 号発電プロジェクト(SM-3)は、高さ 171m のロックフィルダム(Dennis-Perron ダム)と 2 台の発電機(総設備容量 882 MW)を有する地下発電所からなる。総落差は約 330m であり、Quebec で最も大きい落差である。貯水池と発電所とは 8.3 km の取水路トンネルで結ばれている。湛水面積は 253k m²その距離は約 140km である。延長 86km のアクセス道路が海岸と SM-3 発電所との間に建設された。8 年の建設期間中において、ピーク時の雇

(仮訳)

用者数は 1,200 人、平均して 500 人であった。Quebec 州でのプロジェクトの特徴として、住民の移住は無かったことである。プロジェクトの直接費用は、約 C\$ 2.4 B (約 2,400 億円)である。

2. プロジェクト地域の特徴

延長 280 km の Saint-Marguerite 川は、地形が異なる 3 つの地域を横切って北から南へ流れている。すなわち、Nordic 高原(海拔約 500m の平坦地で多数の湖を存する)、長く続く砂浜と沼を有する低標高の海岸地帯および、その中間に位置する急峻な峡谷を有する丘陵地である。大部分が針葉樹からなる周辺の森林には落葉樹が散見されるが、北方に行くにつれ次第にまばらになり、やがて針葉樹に取って代わる。

人口分布に関しては、St. Lawrence の北岸は人口密度が小さく実質的には海岸沿いのみに居住している。内陸部にはほとんど定住者がいない。町としては、内陸部に Fermont (人口 3,700 人)、沿岸部に Sept-Iles (人口 25,000 人)、Port-Cartier (人口 7,000 人)、および Innu 族先住民地域社会の Uashat-Maliotenam (人口 2,200 人)がある。主要な経済活動は、林業、パルプ製紙業、鉱業、水力発電事業および Sept-Iles におけるアルミニウム製錬と金属製造業である。



発電所および遠隔地へのアクセスを向上させるために建設された 86 km の道路

3. 便益

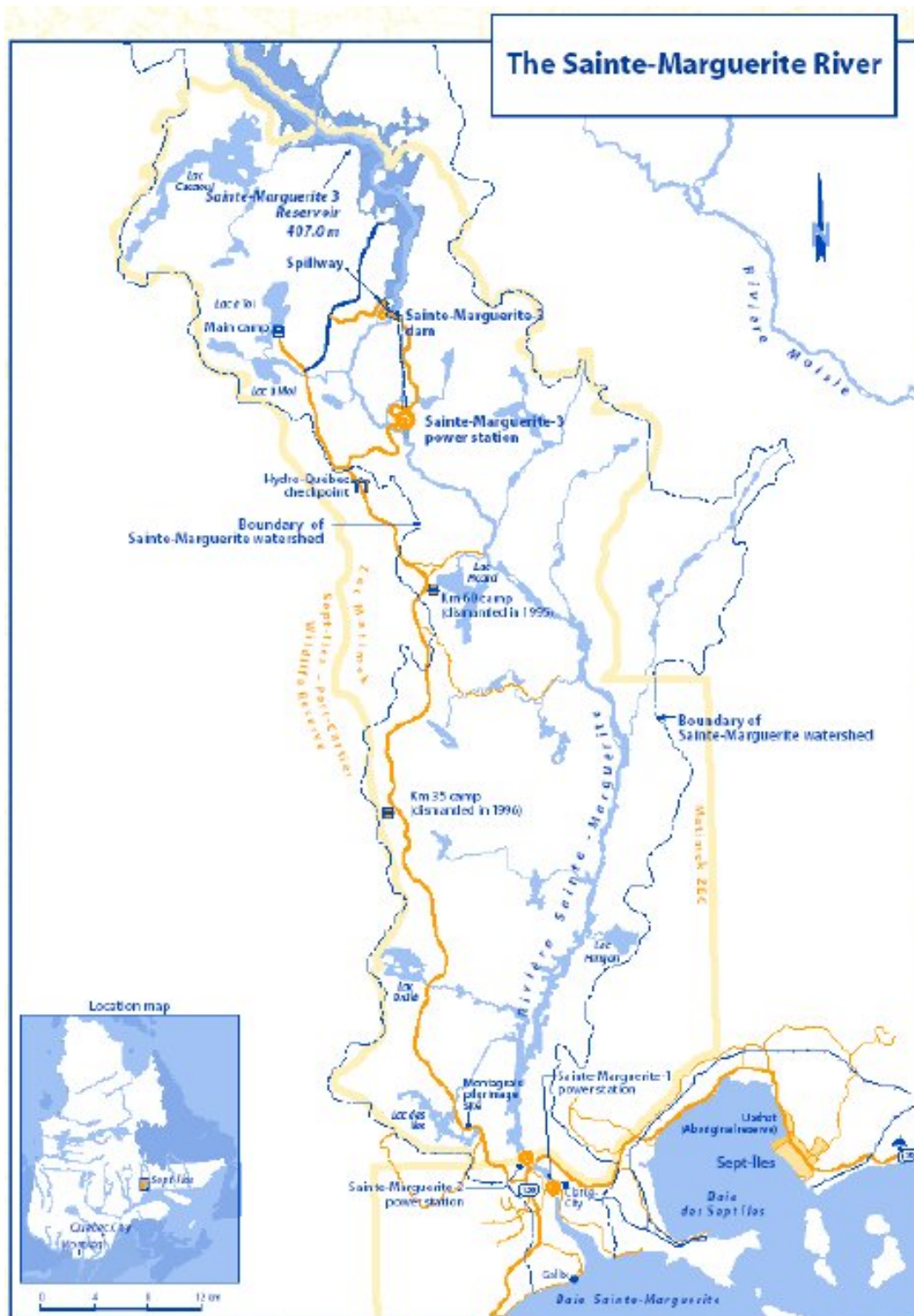
地方行政当局と交わされた 3 つの協定書の中で、社会基盤施設の改善および地域産業に関わる施策が明示された。まずこれらの協定について説明した後、各協定の下に整備された主なインフラについて述べる。さらに、Hydro-Quebec 社は地方経済への波及効果を増大させる諸策を実施した。

3.1 地方行政当局との協定

Uashat Mak Mani-Utenam(1994)-Agreement

Uashat-Maliotenam 地の Innu 先住民地域社会と交わされた“Uashat Mak Mani-Utenam 協定”は、50 年間に渡って支払われる補償として C\$20.9M (1994 年度価格として)を提供するものである。この補償は、2 つの基金、すなわち Innu 族文化の基盤である狩猟や捕獲活動を支援する“Innu Aitun 基金”および、経済や地域社会の発展を促進することを目的とする基金に預金される。更に、上限 C\$ 10 M が、プロジェクト建設期間中の救済措置として予算化された。これらの施策の責任所管が、Innu 族と Hydro-Quebec 社 が共同運営する“Saint-Marguerite 救済事業公社(SOTRAC)”に割り当てられた。本協定は、Saint-Marguerite 3 号発電所の建設、運転期間を通じて、Innu 族の雇用と Innu 族の会社への委託を最大限にするための施策も規定している。

(仮訳)



Saint-Marguerite 川 水系図

総合増進プログラム

Hydro-Quebec 社の総合増進政策の下で、C\$ 500M 超となる新規プロジェクトにより影響を受ける地域社会に対して基金が供与された。このプログラムは、緩和できないような影響を被る地域社会を補償するために、プロジェクトの総投資額の1%を拠出するものである。本政策の下で、C\$ 28Mの基金が地域開発および環境改善を支援するために、1995年に地域・地方行政当局に拠出された。

(仮訳)

Matimek ZEC (野生生物狩猟制限区域)

Denis-Perron ダムは Matimek ZEC(野生生物狩猟制限区域)の中に建設されるため、Hydro-Quebec 社は、当該地域の野生生物資源を管理する Sept-Iles 狩猟・漁獲組合と協議を進め、協定を締結した。この協定により Saint-Marguerite2 号貯水池への交通アクセスが改善され、また、当組合に建設期間中の管理施設が提供された。

3.2 Innu 族地域社会のための新規社会基盤の建設

Uashat Mak Mani-Utenam 協定は、土地の高度利用条項および Innu 族社会のための新規施設の建設から成る。主なプロジェクト内容は以下のとおり。

- Saint-Marguerite Moisie 流域において幾つかの狩猟用小屋と 4 箇所のコミュニティーキャンプの建設
- 多数の Innu 族の捕獲用罾道および当該地域の最遠部へのアクセスを容易にする、170 kmのスノーモービル用小道の建設
- スポーツ施設(体育館および 2 箇所の競泳プール)の建設
- 新しい事業施設(スーパーマーケット、金物店)の建設
- Saint Anne を祭った Innu 族の聖地の整備
- 当該地域で発見された重要遺跡の恒久的な陳列と Innu 族文化の承継を献じた Shaputuan 資料館の建設



スノーモービル用小道



Innu族文化を献じた Shaputuan 資料館



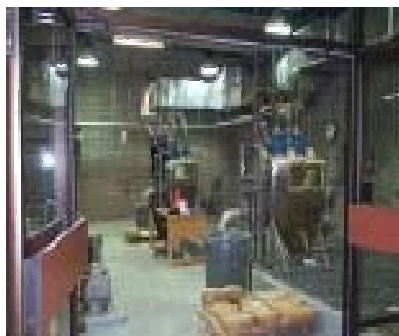
体育館と競泳用プール

3.3 総合増進プログラムの下で実施された主な社会基盤整備プロジェクト

Hydro-Quebec 社の総合増進プログラムは、地域開発を支援したのみならず、環境や公共社会基盤の質を改善させることを目的とした多数のプロジェクトの資金調達に寄与した。プロジェクトには以下の項目を含む。

衛生施設

- Sept-Iles および Port-Cartier における上水道浄化施設
- 5 つの地域社会における自治体の水道網の改善
- Sept-Iles におけるゴミ処理場の拡張



Sept-Iles および Port-Cartier における上水道浄化施設

(仮訳)

娯楽および観光施設

- 4 箇所の公立公園と 3 箇所の運動場の造成、整備
- 19 世紀の製材工場、牧師の住宅や教会といった史跡の整備
- ハイキング、サイクリングやクロスカントリースキー用の道路造成
- 2 箇所のキャンプ場、スキー場、アウトドア活動センター、ボート漕ぎのための河川へのアクセス路、サケの解説センターといった、いくつかの娯楽分野の開発、整備

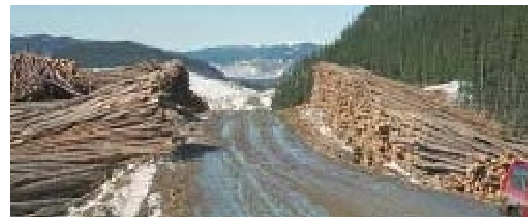


地域社会開発プロジェクト

- 3 箇所のコミュニティーセンターおよび 2 箇所の公立庭園の建設
- Gallix におけるパノラマ遊歩道および海浜保護工の建設
- 地域の林業および製紙業の経済活動の維持のための財政支援
- Sept-Iles における遊歩道の建設



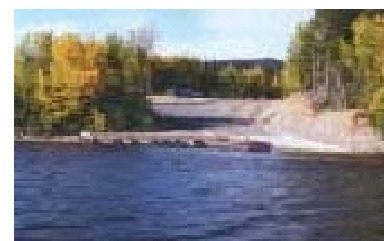
Gallix におけるパノラマ遊歩道



地域の製紙産業の支援

3.4 Matimek ZEC (野生生物狩猟制限区域) のための新規社会基盤建設

アクセス道路の改良および駐車場と船着場 (ボートランプ) の設置により Saint-Marguerite2 号貯水池へのアクセスが改善された。船着場 (ボートランプ) は Saint-Marguerite3 号貯水池にも設置された。加えて、魚の生息環境を改善するための方策がなされた。Matimek ZEC は本プロジェクトを通じて約 C\$ 1M の支援を受けた。



Saint-Marguerite 貯水池
での船着場

3.5 地域経済への波及効果を向上させる施策

1993 年に、Hydro-Quebec 社は北岸地域の経済へのプラスの影響を最大化するために、地方経済支援委員会を立ち上げた。当委員会は地域経済界からの代表者によって構成される。その施策は、以下の事項を含んでいる。

(仮訳)

- Hydro-Quebec 社 と地域・地方経済関係者との間の恒久的な通信手段を確保するために常勤の責任者を雇用すること
- 地元企業への下請け率を高めるための施策
- 地元企業からの入札を促進するために契約を分割すること
- 地元企業を対象にした入札の実施

Innu 族地域社会は、Innu 族会社への契約発注や Innu 族労働者のための訓練プログラムを含む特定の施策によって便益を得た。

4. 便益の効果

新規の社会基盤による利益を得た町村における生活質の向上に加えて、内陸地域へのアクセスの改善や地域経済への波及効果が主な便益である。

4.1 遠隔地への交通アクセスの改善

Saint-Marguerite3 号プロジェクトの開発前は、内陸地域へ訪れる人はほとんどいなかった。この開発により、道路網の拡張が進み、その結果、レジャーおよび商業目的のための土地利用が促進した。発電所に至る延長 86km の新設道路により内陸地域へのアクセスが容易になった。当該道路は伐採木材運搬道路を拡張したものであった。地方行政当局は、将来は観光名所への道路事情を改善して内陸環状道路が開設できるように、当該道路をこれと並行して西へ延びている別の道路 (Baie-Comeau と Fermont を結ぶ 389 号線) に接続することを要請していた。

1994 年から 1999 年にかけて、Saint-Marguerite3 号の北側の土地利用は 3 倍に伸びた。そのピーク期間は、夏季休暇や大小の狩猟シーズンに一致している。新規の道路網は、またリゾ - ト開発を喚起した。訪問者の活動は、以前は Saint-Marguerite2 号貯水池周辺に集中していたが、今では Saint-Marguerite 川流域の分水嶺を越えて海岸から北側に 100km 以上にも広がった地域にまで拡張している。

以前はほとんど狩猟しなかったような狩猟地へアクセスできるような道路網が整備されたために、Innu 族の土地利用もまた伸びている。道路の開通により、多数の狩猟キャンプが Saint-Marguerite 川流域に設けられた。加えて Uashat Mak Mani-Utenam 協定の下で開発された社会基盤プロジェクト(スノーモービル用道路など)は、土地利用を大いに促進させた。

4.2 地域の経済発展

3.5 で述べた地域経済への波及効果を高めるための施策は、以下の成果に示されるように地域の経済発展に貢献した。

- 総額 C\$ 790M から地元が発注された金額が C\$ 160M (20%)
- 地域経済に投入された資金は C\$ 500M (給与、商品・サービス、地域社会との協定)
- 当該地域からの建設従事者は、平均して建設従事者全体の 70%

このように、当該プロジェクトは、建設期間中、期待された以上の雇用を地域にもたらした。その他の便益として、地元会社による、持続可能かつ移転可能なノウハウの習得が挙げられる。

Saint-Marguerite3 号プロジェクトはまた、Innu 族コミュニティの経済的発展に寄与した。Innu 族に対して建設期間中に雇用を創出したのみならず、労働者の技術習得に対してより長期的な効果を及ぼした。Innu 族の労働者は、1994 年から 2002 年にかけて平均で約 30 人・年(建設従事者全体の約 4%)であっ

た。さらに、26 人の Innu 族は建設業営業免許を取得し、幾つかの Innu 族による会社が現場で随意契約を獲得し、また、Innu 建設といった新会社も設立された。

最後に、Saint-Marguerite3 号貯水池の運用は、Saint-Marguerite 川の流量調整を行うことにより、河口近くの河川下流域に位置する 2 箇所の民営水力発電所の可能発電電力量を増大させ、その結果、これら発電所は事業者により増強された。

5. 成功の要因

Quebec 市民は、Hydro-Quebec 社の企業活動全般に対し 80 ポイント以上満足しているが、特定プロジェクトに対する支持はさまざまである。Saint-Marguerite 3 号は地方団体からの正式な支援を受けた全く異例なものであった。Saint-Marguerite 3 号の成功は、一つには、地域・地方の利害関係者、つまり、Innu 先住民族コミュニティー・地方自治体・経済界および土地利用者との交渉と協定の締結を通して信頼関係を構築したことにある。以下に、協定の締結に当たりどのような交渉がなされたかについて述べる。

利害関係者との良好な協調関係を構築する一助となった Saint-Marguerite プロジェクトの経験から得られた教訓は、以下のとおり要約される (Milewski and Corfa, 1998)。

- ・ 現場主義：設計段階から直ちに、当該地域に恒久的に駐在することが重要である。
- ・ 地元での雇用：地域社会との関係を取り取り仕切る地位に信頼できる地元住民を登用する。
- ・ 理解：利害関係者の期待、可能性、限界を理解する。
- ・ 傾聴と行動：解決の糸口はよく利害関係者から提示される。発注者は、合意に達するために自己の主張を修正する用意ができていなければならない。
- ・ 言動一致：信頼を得るための前提条件。
- ・ 約束遵守：信頼は一步ずつ築かれる。
- ・ 協同：相互信頼を確固たるものにする。

6. 第三者のコメント

以下のセクションでは、Saint-Marguerite3 号プロジェクトにおいて、特定利害関係者グループの各々に対して持ち上がった課題、ならびに彼らが明示した正・負のコメントについて述べる。最後にリストアップした新聞の論評は、これらの成果を支持している。

6.1 Innu 族地域社会

Saint-Marguerite 3 号プロジェクトは、Uashat-Maliotenam の Innu 先住民族地域社会に 3 つの基本的課題、つまり、土地所有権の主張、内陸地 (奥地) への交通アクセスおよび経済発展を提起した。土地所有権の主張に関しては、Innu 族の政治的状況は多数のカナダ先住民族地域社会の場合と類似している。つまり、政府と当該地域社会との間で土地所有権に関して取り決められた協定が無いことである。政治的合意が無いために、紛争地域での大規模な社会基盤整備事業を実施することは困難である。このことは政治的対立を回避するために、プロジェクト事業者は先住民族地域社会と個別プロジェクト毎に協議を行う必要のあることを意味している。内陸地域 (奥地) へのアクセスもまた課題となった。というのは、より容易なアクセスは、先住民族地域社会とその他住民との間で野生生物資源の獲得の競合を増大させるからである。しかしながら、本プロジェクトは当該地域に多大な経済発展をもたらすものであり、地域社会の発展は Innu 族にとっても重要な課題である。

(仮訳)

Saint-Marguerite 3 号プロジェクトの計画段階の間ずっと、Innu 族地域社会を代表する被選挙団体である Band Council (委員会) は、当委員会が政策決定プロセスに関与する共同実施者である限りにおいて本プロジェクトに反対ではなかった。伝統的先住民族の価値を支持する地域社会内部の政治的運動団体である“Innu 族伝統主義者”は、その対極の立場であった。“伝統主義者”は、本プロジェクトに対して断固として反対であり、非先住民族による今までの土地占有についての補償を要求した。Uashat と Malietenam の世論は、伝統主義者の立場を支持するものから Band Council (委員会) を支持するものまで広範囲に及んだ。

公聴会で出た意見は完全に2極化した。Hydro-Quebec 社は Innu 族と受け入れ可能な合意を模索することを余儀なくされた。ひとたび予備的合意がなされると、Band Council (委員会) は、Innu 族地域社会での住民投票を実施することとした。この地域社会の住民投票は、当該協定が Innu 族にとって受容できるかどうかを決するものであった。この住民投票は、僅差であったが賛成票が上回り(52%)、これにより、Band Council (委員会) は、Uashat Mak Mani-Utenam 協定を Hydro-Quebec 社間で締結し、Saint-Marguerite3 号プロジェクトに許可を与えた(3.1 参照)。これに関し特筆すべき点は、歴史上の土地所有権問題は未決着であり、かつ本協定には政府の関与が一切なく、したがって Innu 族が政府に対して主張している土地所有権を Innu 族が継続していくことを認めるという意味において、本協定は政治的なものではないということである。本協定はまた団体協定であって、何ら個人的補償はなく、むしろ地域社会全体への補償である。このことは地域社会自身が求めたことであった。

6.2 地方自治体および経済界

地方自治体および経済界にとっては、地域経済への波及効果を最大化するというのがひとつの大きな課題であった。1990 年代初期、地方経済は厳しい景気後退を経験した。経済界、労働組合、および政治指導者は Saint-Marguerite3 号を誘致するために協力し、Hydro-Quebec 社に対して当該地域で可能な限り経済活動を誘引するよう働きかけた。その結果、Hydro-Quebec 社は地域経済への波及効果を高める一連の諸対策(3.5 参照)および、総合増進プログラム(3.1 参照)を実施した。

地元経済界、労働界、および政治組織から本プロジェクトに対し強力な支援があった。大きな出来事として近年では初めてと思われる政治的デモが行われ、経済界・労働組合・先住民族指導者を含む種々の団体が水力発電プロジェクトを支持するために街頭に繰り出したのであった。

6.3 土地利用者

土地利用者の重要課題は、新規アクセス道路の建設によって起こりうる天然資源についてのより厳しい競争であった。Innu 族は当該資源の獲得競争について懸念を抱いていた。その他の土地利用者は、Hydro-Quebec 社が補償と緩和対策について保証する限りにおいて、本プロジェクトに基本的には反対ではなかった。そこで、Hydro-Quebec 社は、当該地域の野生生物を管理する団体と協議を進め、ZEC Matimek 協定(3.1 参照)を締結した。

7. 詳細情報の入手先等

7.1 参照文献

- 1) Entente concernant les modalites d'accès à la Zec Matimek et les mesures d'atténuation. 1995.
http://www.Hydro-Quebec.com/sm3_project/
- 2) Hydro-Quebec 社 . 1990. Program for Environment Enhancement.
- 3) Hydro-Quebec 社 . 1991. Aménagement hydroélectrique Sainte-Marguerite-3, Rapport d'avant-projet. (Draft Design Report). 8 volumes.

(仮訳)

- 4) Hydro-Quebec 社 . 2003. Construction of the Sainte-Marguerite-3 Hydroelectric Development 1994-2002: Environmental Highlights.
- 5) Milewski, J. and Corfa, G. 1998. Building social trust between developers and stakeholders: The case of SM3 in Quebec. Hydropower & Dams, Issue Three.
- 6) Ministère de l'environnement du Québec. 1993. Projet d'aménagement hydro-électrique Sainte-Marguerite-3. Rapport d'analyse environnementale, Direction des projets en milieu hydrique, Dossier 3211-12-005.
- 7) Uashat Mak Mani-Utenam Agreement. 1994.
- 8) 新聞報道:

新聞	日付	執筆者	表題
Le Soleil	28/01/1999	Stephane Tremblay	Chantier de la Sainte-Marguerite-3: L'année 1998 meilleure que prévue
Le Soleil	09/12/1999	Stephane Tremblay	Au chantier de SM-3 Hydro-Quebec 社 favorise les entreprises régionales
Le Soleil	02/09/2000	Stephane Tremblay	Barrage SM-3: Hydro prie de continuer les visites
Le Soleil	12/12/2000	Steve Paradis	L'union fait la force – Baie-Comeau croit avoir trouvé une solution pour maximiser les retombées
Le Soleil	18/06/2001	Stephane Tremblay	"L'exemple à suivre" Elie Saheb, vice-président chez Hydro-Quebec 社, ne cache pas sa fierté pour SM-3
Le Soleil	18/06/2001	Stephane Tremblay	Vie communautaire: Charlevoix-Côte-Nord
Le Soleil	24/09/2001	Stephane Tremblay	La Côte-Nord crie à l'aide

7.2 問い合わせ先

先住民族コミュニティとの協定に関する問い合わせは下記にご連絡ください。

Mr. Richard Laforest
Hydro-Quebec 社
75, boul. René-Levesque Ouest, (17e)
Montreal, Québec
H2Z 1A4
e-mail: laforest.Richard@hydro.qc.ca

その他の問い合わせは下記にご連絡ください。

Mr. Richard Perron
Hydro-Quebec 社
135 boul. Comeau – RC Baie-Comeau, Québec
G4Z 3B1
e-mail: perron.Richard@hydro.qc.ca